

土づくり



営

農

情

報

水稲

レーク滋賀管内の水稲も概ね刈取作業が終わり、今年産の収穫作業が終わりを迎えようとしています。今年産の水稲栽培時期も非常に天候の変動が激しく、水稲栽培にとって厳しい年となりました。刈り取りが終わった方は、ようやく一息つく事ができたかと思われます。しかし、来年に向けての米づくりが控えています。今年を振り返り、まずは土づくりから行いましょう。

### 米づくりは土づくりから

〜地方を高め異常気象にも安定した稲作を〜

土づくりは水稲栽培において重要な作業のひとつです。近年は日照不足や高温などの影響で、白未熟粒や登熟不良による品質や収量の低下が見受けられます。このような気象状況にも負けない米を作るため、しっかりと土づくりを実施しましょう。

### 土づくりのポイント

#### ① 秋期のすき込み(10月)

今年も各地区で、高温等による異常還元状態のほ場が多く見受けられました。稲わらは早くすき込むほど腐植が進み、還元障害(酸欠障害)にとても有効です。また、病害虫や雑草対策として、土壌埋没することで、次年度の発生を軽減する効果もあります。



#### ② 深耕して作土を深くする(目標15cm)

深耕は、深く根を張らすことにより、高温障害の影響をやわらげる効果があります。また、深耕すると透水性が良くなるだけでなく、鉄やケイ酸などの養分が作土に戻り土が若返ります。ただし、一度に深くするのではなく、徐々に(年2〜3cm)目標の深さにしていきましょう。

#### ③ 土づくり肥料の施肥(とれ太郎 80kg/10a)

稲は、他の植物と違いケイ酸をよく吸収し、1作中に100kg/10a以上もケイ酸を吸収します。水稲が吸収するケイ酸は前作に出た稲わらなどからも補給されますが、それだけでは、前作で水稲が吸収した分のケイ酸を補給したことはなりません。『とれ太郎』などの土づくり資材を刈り取り後に施肥し、水稲の生育に必要なケイ酸を補給するようにしましょう。

とれ太郎 けい酸の吸収率が高い!!

従来 けい酸質肥料

吸収されたけい酸

吸収されたけい酸

施肥されたけい酸全量

とれ太郎 6-12-30-40

全量

とれ太郎 20kg

各成分がバランス良く配合された

とれ太郎の効果 倒伏軽減 品質向上・安定多収

☆品質が向上し、収量が安定します。

☆登熟が向上し、粒太りがよくなります。

☆茎や葉を丈夫にするので、倒伏や病害虫に強くなります。

☆いきいきとした活力の高い根を作ります。

☆根張りがよくなります。

けい酸

苦土

りん酸